

(3) 授業の質的改善のプロセス

ア A校の実践（第2学年）

(ア) 6月の実践

a 生徒の実態把握（手順①）と教師の指導や単元構想についての振り返り及び改善策の検討（手順②）

日々の授業を「主体的・対話的で深い学び」の視点から質的に改善をするために、A校の第2学年の生徒の実態を把握する必要がありましたので、6月に「意識調査」（授業の見直しと質的改善を図るための手立て - 3 の表 1）を行いました。

- ・「社会の勉強は好きだ」と、51%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業の内容はよく分かる」と、76%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」と、97%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業で、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思う」と、68%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業で扱うノートやワークシートには、本時の学習のめあてを書いていると思う」と、94%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業では、単元全体を通した学習課題を意識して学習していると思う」と、97%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業では、先生と共に単元全体を通した学習課題をつくっていると思う」と、97%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習していると思う」と、94%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業では、本時の学習のめあてや単元全体を通した学習課題について、予想や仮説を立てていると思う」と、85%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業では、調べる活動をよく行っていると思う」と、91%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業では、調べたことを、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う」と、91%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業で、自分が調べて分かったことや考えたことを基に話し合っている（討論している）と思う」と、91%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業では、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と、88%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている」と、88%の生徒が回答しました。
- ・「社会の授業で、学習を振り返る活動を行っていると思う」と、94%の生徒が回答しました。



意識調査の結果から、調べたり考えたりすることをはっきり分かって学習する中で学習内容はよく分かると感じており、発表する機会も多く与えられていると思っている生徒が多いことが分かりました。めあてや振り返りに関する質問項目についても高い割合で肯定的な回答をしている生徒が多かったです。しかし、「社会の授業では、先生と共に単元全体を通した学習課題をつくっていると思う」と 97%の生徒が回答していますが、実際は教師が単元を貫く学習課題を設定して生徒に示しており、教師の振り返りとアンケート結果の差異が見られます。また、「社会の授業では、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と、88%の生徒が回答していますが、「社会の授業で、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思う」と、68%の生徒が回答していることも分かりました。

以上のことから、授業の学習課題を確認し、話し合う活動や討論をしながら課題を追究することはできていると考えられます。一方で、自分の考えを文章に表現したり、理論立てて説明したりすることに課題が見られました。

日々の授業や生徒のワークシートやノートへの記述、「意識調査」で把握した生徒の実態を踏まえながら「チェックリスト」を用いて、教師自身が自らの授業を振り返りました（資料 1）。まずは、資料 1「課題把握」の項目の「生徒と共に単元全体を通した（貫く）学習課題を設定している」、「予想や仮説を立てることができるようにしている」ことについて、「教師の手立て表」から必要と思われる手立てを検討しました（資料 2）。

課題把握	☑	手立て (A)	課題追究	☑	手立て (B)	課題解決 新たな課題	☑	手立て (C)
本時のめあてを設定している	✓	A①	調べる時間を設定している	✓	B①	まとめの時間を設定している	✓	C①
単元全体を通した（貫く）学習課題を設定している	✓	A②	調べたことを、ペアやグループで話し合わせる時間を設定している	✓	B②③	学習課題について、ノートやワークシートなどにまとめることができるようにしている	✓	C②③
生徒と共に単元全体を通した（貫く）学習課題を設定している		A③	複数の資料を基に、多面的・多角的に調べて考えることができるようにしている	✓	B④	学習を振り返らせる時間を設定している		C④
単元の見通しをもつことができるようにしている	✓	A④	自分と他の生徒の考えを比較しながら、話し合うことができるようにしている	✓	B⑤	結論について、他の生徒と話し合わせ、考えることができるようにしている		C⑤⑥
予想や仮説を立てることができるようにしている		A⑤	複数の立場や意見を踏まえ、解決に向けて選択・判断することができるようにしている	✓	B⑥	次時や次の単元につながる新たな問い（課題）を見いだすことができるようにしている		C⑦

資料 1 教師の自己評価（6 月）

b 教師の改善策の策定（手順③）

資料 1「課題把握」の項目の「生徒と共に単元全体を通した（貫く）学習課題を設定している」ことについては、資料 2 A③の「テレビのニュースや新聞等を活用した身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する」の手立てを、「予想や仮説を立てることができるようにしている」ことについては、資料 2 A⑤の「学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージできるようにする」の手立てを取り入れることにしました。

	課題把握		課題追究		課題解決 新たな課題	
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	●学習課題を設定する ・社会的事象等を知る ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する	●課題解決の見通しをもつ ・予想や仮説を立てる ・学習計画を立てる	●予想や仮説の検証に向けて調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の生徒と情報を交換する	●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する ・多面的・多角的に考察する ・話し合う（討論等） ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する	●考察したことや構想したことをまとめる ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について、他の生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる	●学習を振り返って考察する ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりする
教師の手立ての例	A① 既習事項や前時までのつながりを意識させて本時のめあてを設定する A② 資料や写真を提示して問いをもたせ、単元全体を通した（貫く）学習課題を設定する A③ テレビのニュースや新聞等を活用して身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する A④ 学習課題の解決に向けて、電子黒板やワークシート等を活用しながら見通しをもたせ、ゴールをイメージできるようにする A⑤ 学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージできるようにする		B① 学習課題を確認し、個人で調べる場を設定する B② ペアやグループで協働して調べる場を設定する B③ 役割分担(司会、発表者等)を行い、話し合いの視点を与える B④ 個人で考える場を設定して、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるようにする B⑤ グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら話し合うことができるようにする B⑥ グループで、それぞれの考えとその根拠を交換し合う中で、解決に向けて選択・判断することができるようにする		C① 問い返しをしながら授業のまとめをする場を設定する C② ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示してまとめることができるようにする C③ 自分の考えの根拠となる資料を示し、ノートやワークシートにまとめることができるようにする C④ 学習課題を振り返らせる時間を設定し、学習内容を振り返ることができるようにする C⑤ 結論について、グループで話し合わせたことを基に、レポートなどにまとめることができるようにする C⑥ 問い返しをしながら、学習したことを自分たちの生活とつなげて考えることができるようにする C⑦ 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る場を設定し、新聞記事や時事問題等を取り上げ、現代の社会問題につなげることができるようにする	

資料 2 取り入れる手立て（6 月）

前頁資料 2 から選択した手立てを以下のように、単元の学習内容に併せて取り入れました。

6 月に採った意識調査の結果や授業の様子などを踏まえた生徒の実態を基に選択した教師の手立て

- ・電子黒板を活用して資料を提示したり、年表や徳川家の系図について生徒に発表させたりして問い返しをしながら、単元を貫く学習課題に導く。【A③】
- ・単元を貫く学習課題に対する予想や仮説について発表させ、ゴールをイメージできるように促す。

【A⑤】

c [6 月の実践] 教師の手立てを取り入れた授業実践 (手順④)

単元名 「江戸幕府の成立と支配の仕組み」(東京書籍 pp.112-119)

単元の指導の実際

・・・質的改善を図った手立て

過程	主な学習活動	教師の働き掛け (○)、手立て (◆)	時配
つかむ	○年表や徳川家の系図から、江戸時代について大観する。	○長い間 (約 260 年) 江戸幕府が存続したことに気付くように、年表や徳川家の系図について読み取らせた。	1
	○江戸時代について追究する単元を貫く学習課題を設定する。	◆電子黒板を活用して資料を提示したり、年表や徳川家の系図について生徒に発表させたりして問い返しをしながら、単元を貫く学習課題に導いた。【A③】	
	【単元を貫く学習課題】なぜ江戸幕府は 260 年間続いたのだろう		
	○単元を貫く学習課題に対して考えた予想や仮説について発表する。	◆単元を貫く学習課題に対する予想や仮説について発表させ、ゴールをイメージできるように促した。【A⑤】	
調べる	○江戸幕府の全国支配の仕組みについて、教科書や資料集を使って調べる。	○江戸幕府がもった経済力や幕府の仕組み、大名の配置、参勤交代の制度についての資料をワークシートに提示した。	3
	○江戸時代の身分制度について、教科書や資料集を使って調べる。	○グループで、話し合いながら協力してワークシートを記入するように促した。	
	○江戸幕府が鎖国に至るまでの経緯や、キリシタンをはじめとする人々の生活の変化について、教科書や資料集を使って調べる。	○ワークシートに、継続的に文章で説明する設問を設けることで文章表現に慣れさせた。	
	○鎖国下の対外政策について、教科書や資料集、ワークシートの資料を使って調べる。	○学習内容が、単元を貫く学習課題の解決につながるよう意識させた。	

考 え ・ ま と め る	○鎖国体制に対する自分の意見を記述する。	○課題把握のときに立てた予想や仮説を振り返らせながら、記述するように促した。	1
---------------------------------	----------------------	--	---

成果と課題

【成果】

- 生徒と共に単元を貫く学習課題を設定したことで、学習内容と学習課題のつながりを意識して学習することができました。
- 課題に対する予想や仮説を立てさせたことで、課題解決の場面において、当初の予想や仮説と比較して考察することができました。
- 話し合い活動を継続して行うことで、協力してワークシートに記入することができました。

【課題】

- 適切な文章表現ができない、文章の内容が稚拙である生徒が多く、時間内の課題解決に至らなかったため、ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示してまとめさせる必要があります。
- チェックリストにおける「テレビのニュースや新聞等を活用した身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する」という項目については、江戸時代の身近な例をニュースや新聞から取り上げることができなかったため、項目内容を再検討する必要があります（※チェックリストの項目内容を加筆し、7月の単元へ）。
- 歴史的分野と地理的分野では、生徒の実態が異なっていたので、「チェックリスト」にチェックした項目が当てはまらない部分がありました。今後は、地理的分野、歴史的分野を念頭に置きながら、それぞれの分野における生徒の実態を把握して、取り入れる手立てを検討していく必要があります。

(イ) 7月の実践

a 生徒の実態把握（手順①）と教師の指導や単元構想についての振り返り及び改善策の検討（手順②）

6月の実践の成果と課題と生徒の実態を踏まえながら「チェックリスト」を用いて、教師自身が自らの授業を振り返りました（次頁資料3）。6月の実践で成果のあった教師の手立てを継続して取り入れ、新たに次頁資料3「課題追究」の項目の「複数の資料を基に、多面的・多角的に調べて考えることができるようにしている」、次頁資料3「課題解決」の項目の「学習課題について、ノートやワークシートなどにまとめることができるようにしている」ことについて、「教師の手立て表」から必要と思われる手立てを検討しました（次頁資料4）。

課題把握	☑	手立て (A)	課題追究	☑	手立て (B)	課題解決 新たな課題	☑	手立て (C)
本時のめあてを設定している	✓	A①	調べる時間を設定している	✓	B①	まとめの時間を設定している	✓	C①
単元全体を通した（貫く）学習課題を設定している	✓	A②	調べたことを、ペアやグループで話し合わせる時間を設定している	✓	B②③	学習課題について、ノートやワークシートなどにまとめることができるようにしている		C②③
生徒と共に単元全体を通した（貫く）学習課題を設定している	✓	A③-1 A③-2	複数の資料を基に、多面的・多角的に調べて考えることができるようにしている		B④	学習を振り返らせる時間を設定している		C④
単元の見通しをもつことができるようにしている	✓	A④	自分と他の生徒の考えを比較しながら、話し合うことができるようにしている		B⑤	結論について、他の生徒と話し合わせ、考えることができるようにしている		C⑤⑥
予想や仮説を立てることができるようにしている	✓	A⑤	複数の立場や意見を踏まえ、解決に向けて選択・判断することができるようにしている		B⑥	次時や次の単元につながる新たな問い（課題）を見いだすことができるようにしている		C⑦

資料 3 教師の自己評価（7月）

b 教師の改善策の策定（手順③）

資料 3「課題追究」の項目の「複数の資料を基に、多面的・多角的に調べて考えることができるようにしている」ことについては、資料 4 B④の「個人で考える場を設定して、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるようにする」の手立てを取り入れることにしました。資料 3「課題解決」の項目の「学習課題について、ノートやワークシートなどにまとめることができるようにしている」ことについては、資料 4 C②の「ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示してまとめることができるようにする」、資料 4 C③の「自分の考えの根拠となる資料を示し、ノートやワークシートにまとめることができるようにする」の手立てを取り入れることにしました。

	課題把握		課題追究		課題解決 新たな課題	
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	●学習課題を設定する ・社会的事象等を知る ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する	●課題解決の見通しをもつ ・予想や仮説を立てる ・学習計画を立てる	●予想や仮説の検証に向けて調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の生徒と情報を交換する	●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する ・多面的・多角的に考察する ・話し合う（討論等） ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する	●考察したことや構想したことをまとめる ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について、他の生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる	●学習を振り返って考察する ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりする
教師の手立ての例	A① 既習事項や前時までのつながりを意識させて本時のめあてを設定する A② 資料や写真を提示して問いをもたせ、単元全体を通した（貫く）学習課題を設定する A③-1 テレビのニュースや新聞等を活用して身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する A③-2 資料や動画を活用し、問い返しをしながら学習課題を設定する A④ 学習課題の解決に向けて、電子黒板やワークシート等を活用しながら見通しをもたせ、ゴールをイメージできるようにする A⑤ 学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージできるようにする		B① 学習課題を確認し、個人で調べる場を設定する B② ペアやグループで協働して調べる場を設定する B③ 役割分担（司会、発表者等）を行い、話し合いの視点を与える B④ 個人で考える場を設定して、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるようにする B⑤ グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら話し合うことができるようにする B⑥ グループで、それぞれの考えとその根拠を交換し合う中で、解決に向けて選択・判断することができるようにする		C① 問い返しをしながら授業のまとめをする場を設定する C② ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示してまとめることができるようにする C③ 自分の考えの根拠となる資料を示し、ノートやワークシートにまとめることができるようにする C④ 学習課題を振り返らせる時間を設定し、学習内容を振り返ることができるようにする C⑤ 結論について、グループで話し合わせたことを基に、レポートなどにまとめることができるようにする C⑥ 問い返しをしながら、学習したことを自分たちの生活とつなげて考えることができるようにする C⑦ 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る場を設定し、新聞記事や時事問題等を取り上げ、現代の社会問題につなげることができるようにする	

資料 4 取り入れる手立て（7月）

前頁資料 4 から選択した手立てと、6 月に実践して成果のあった手立て（A③ - 2、A⑤）を継続して以下のように取り入れました。

6 月の実践の課題を受けての教師の手立て

- ・江戸幕府の財政状況の変化を示す資料から幕藩体制が危機的状況に陥っていったことを示し、問い返しをしながら単元を貫く学習課題につなげる。【A③ - 2】
- ・単元を貫く学習課題に対する予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージできるように促す。【A⑤】
- ・江戸時代の農業や諸産業の発達について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・交通路と三都について複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・元禄文化を代表する人物や芸能について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・享保の改革と貨幣経済の広がりによる社会の変化について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・田沼の政治と寛政の改革について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・化政文化を代表する人物や作品について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・天保の改革と幕府政治の変化について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・文章表現を行う場を設定するとともに、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って、根拠となる資料を示してまとめるように促す。【C②③】

c 【7 月の実践】教師の手立てを取り入れた授業実践（手順④）

単元名 「産業の発達と幕府政治の動き」（東京書籍 pp.120-133）

単元の指導の計画

単元の指導の計画		質的改善を図った手立て	
過程	主な学習活動	教師の働き掛け（○）、手立て（◆）	時配
つかむ	○年表や徳川家の系図から、江戸時代の中期について大観する。	○既習事項などから、盤石と思われた江戸幕府も中期は改革が必要な状況に陥っていたことに気付くように促した。	1
	○江戸時代について追究する単元を貫く学習課題を設定する。	◆江戸幕府の財政状況の変化を示す資料から幕藩体制が危機的状況に陥っていったことを示し、問い返しをしながら単元を貫く学習課題につなげた。 【A③ - 2】	
	〔単元を貫く学習課題〕江戸時代の諸改革は成功したのだろうか		

	○単元を貫く学習課題に対して考えた予想や仮説を立てる。	◆単元を貫く学習課題に対する予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージできるように促した。【A⑤】	
調 べ る	○江戸時代の農業や諸産業の発達について、教科書や資料集を使って調べる。	○グループ内で話し合い、協力してワークシートを記入するよう促した。 ○自分の考えを文章で適切に表現できるように、ワークシートに継続的に文章で説明する設問を設けた。 ◆江戸時代の農業や諸産業の発達について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。【B④】	7
	○交通路と三都について、教科書や資料集を使って調べる。	◆交通路と三都について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。【B④】	
	○元禄文化を代表する人物や芸能について、教科書や資料集を使って調べる。	◆元禄文化を代表する人物や芸能について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。【B④】	
	○享保の改革と貨幣経済の広がりによる社会の変化について、教科書や資料集を使って調べる。	◆享保の改革と貨幣経済の広がりによる社会の変化について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。【B④】	
	○田沼の政治と寛政の改革について、教科書や資料集を使って調べる。	◆田沼の政治と寛政の改革について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。【B④】	
	○化政文化を代表する人物や作品について、教科書や資料集を使って調べる。	◆化政文化を代表する人物や作品について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。【B④】	

	○天保の改革と幕府政治の変化について、教科書や資料集を使って調べる。	◆天保の改革と幕府政治の変化について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。 【B④】	
考 え ・ ま と め る	○江戸時代の諸改革について考察し、根拠となる資料を教科書や資料集から選択して、批評文を作成する。	○批評文を作成できるように、前時までの学習内容を振り返るように促した。 ◆文章表現を行う場を設定するとともに、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って、根拠となる資料を示してまとめるように促した。 【C②③】	1

成果と課題

【成果】

- 6月の実践の課題であった「チェックリスト」のA③の項目について、A③-1とA③-2に分けたことで、歴史的分野に対応する手立てとしてA③-2を取り入れることができました。
- 自分の考えを記述させるに当たり、ワークシートに合わせた書き方やキーワードを提示したことにより、相手に伝わりづらい記述をしている生徒も若干見受けられます。ただ、徐々に自分の考えを文章で記述することができるようになってきました。
- 自分の考えを記述させるに当たり、その根拠や参考となる資料を選択させたことにより、課題に対して多面的・多角的に調べて考えることができるようになりました。
- ほとんどの生徒が、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って自分の考えを記述することができるようになりました。

【課題】

- 記述することに対する苦手意識は徐々になくなり、自分の考えを記述できるようになってきました。ただ、感想のみで終わってしまっている生徒が見受けられましたので、個人で考える場を設定して、複数の資料を基に様々な側面、課題から考えさせ、考察の質を向上させる必要があります。
- 自分の考えについて他と共有することはできていましたが、他の意見と比較したり、他の意見を取り入れたりして自分の考えを記述している生徒が少なかったです。発表の場を設定し、他の考えとその根拠をメモさせ、他の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりできるようにして、自分の考えを深めさせる必要があります。

(ウ) 9、10 月の実践

a 生徒の実態把握（手順①）と教師の指導や単元構想についての振り返り及び改善策の検討（手順②）

7 月の実践の成果と課題と生徒の実態を踏まえながら「チェックリスト」を用いて、教師自身が自らの授業を振り返りました（資料 5）。7 月の実践で成果のあった教師の手立てを継続して取り入れ、新たに資料 5〔課題追究〕の項目の「自分と他の生徒の考えを比較しながら、話し合うことができるようにしている」、資料 5〔課題解決〕の項目の「学習を振り返らせる時間を設定している」ことについて、「教師の手立て表」から必要と思われる手立てを検討しました（次頁資料 6）。

課題把握	☑	手立て (A)	課題追究	☑	手立て (B)	課題解決 新たな課題	☑	手立て (C)
本時のめあてを設定している	✓	A①	調べる時間を設定している	✓	B①	まとめの時間を設定している	✓	C①
単元全体を通した（貫く）学習課題を設定している	✓	A②	調べたことを、ペアやグループで話し合わせる時間を設定している	✓	B②③	学習課題について、ノートやワークシートなどにまとめることができるようにしている	✓	C②③
生徒と共に単元全体を通した（貫く）学習課題を設定している	✓	A③-1 A③-2	複数の資料を基に、多面的・多角的に調べて考えることができるようにしている	✓	B④	学習を振り返らせる時間を設定している		C④
単元の見通しをもつことができるようにしている	✓	A④	自分と他の生徒の考えを比較しながら、話し合うことができるようにしている		B⑤	結論について、他の生徒と話し合わせ、考えることができるようにしている	✓	C⑤⑥
予想や仮説を立てることができるようにしている	✓	A⑤	複数の立場や意見を踏まえ、解決に向けて選択・判断することができるようにしている		B⑥	次時や次の単元につながる新たな問い（課題）を見いだすことができるようにしている		C⑦

資料 5 教師の自己評価（9 月）

b-1 教師の改善策の策定（手順③）

資料 5〔課題追究〕の項目の「自分と他の生徒の考えを比較しながら、話し合うことができるようにしている」ことについては、次頁資料 6 B⑤の「グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら話し合うことができるようにする」の手立てを取り入れることにしました。資料 5〔課題解決〕の項目の「学習を振り返らせる時間を設定している」ことについては、次頁資料 6 C④の「学習課題を振り返らせる時間を設定し、学習内容を振り返ることができるようにする」の手立てを取り入れることにしました。

	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	●学習課題を設定する ・社会的事象等を知る ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する	●課題解決の見通しをもつ ・予想や仮説を立てる ・学習計画を立てる	●予想や仮説の検証に向けて調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の生徒と情報を交換する	●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する ・多面的・多角的に考察する ・話し合う（討論等） ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する	●考察したことや構想したことをまとめる ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について、他の生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる	●学習を振り返って考察する ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりする
教師の手立ての例	A① 既習事項や前時までのつながりを意識させて本時のめあてを設定する A② 資料や写真を提示して問いをもたせ、単元全体を通した（貫く）学習課題を設定する A③-1 テレビのニュースや新聞等を活用して身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する A③-2 資料や動画を活用し、問い返しをしながら学習課題を設定する A④ 学習課題の解決に向けて、電子黒板やワークシート等を活用しながら見通しをもたせ、ゴールをイメージできるようにする A⑤ 学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージできるようにする	B① 学習課題を確認し、個人で調べる場を設定する B② ペアやグループで協働して調べる場を設定する B③ 役割分担(司会、発表者等)を行い、話し合いの視点を与える B④ 個人で考える場を設定して、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるようにする B⑤ グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら話し合うことができるようにする B⑥ グループで、それぞれの考えとその根拠を交換し合う中で、解決に向けて選択・判断することができるようにする	C① 問い返しをしながら授業のまとめをする場を設定する C② ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示してまとめることができるようにする C③ 自分の考えの根拠となる資料を示し、ノートやワークシートにまとめることができるようにする C④ 学習課題を振り返らせる時間を設定し、学習内容を振り返ることができるようにする C⑤ 結論について、グループで話し合わせたことを基に、レポートなどにまとめることができるようにする C⑥ 問い返しをしながら、学習したことを自分たちの生活とつなげて考えることができるようにする C⑦ 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る場を設定し、新聞記事や時事問題等を取り上げ、現代の社会問題につなげることができるようにする			

資料 6 取り入れる手立て（9、10月）

資料 6 から選択した手立てと、7 月に実践して成果のあった手立て（A③-2、B④、C②③）を継続して以下のように取り入れました（b-2、b-3 も同様）。

7 月の実践の課題を受けての教師の手立て

- ・単元の見通しをもつことができるように、九州地方の自然環境に関する写真を示し、問い返しをしながら単元を貫く学習課題を設定する。【A③-2】
- ・九州の南部と北部の自然環境の違いに農業の違いを関連させて、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・九州地方の工業と九州地方のアジアとの位置関係を関連させて、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・南西諸島における自然環境やアメリカ軍用基地との関わりと、その環境下における人々の生活について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促す。【B⑤】
- ・学習内容をまとめる際に、文章表現を行う場を設定するとともに、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って、根拠となる資料を示してまとめるように促す。【C②③】

c-1 [9月の実践] 教師の手立てを取り入れた授業実践(手順④)

単元名 「九州地方」(帝国書院 pp.168-181)

単元の指導計画

・・・質的改善を図った手立て

過程	主な学習活動	教師の働き掛け(○)、手立て(◆)	時配
つかむ	○九州地方を概観する。 ○九州地方における自然環境やその自然環境下における人々の生活や産業について追究する単元を貫く学習課題を設定する。	○地図や雨温図、写真などの資料から九州地方の自然環境について読み取らせることで、九州地方の概観を整理した。 ◆単元の見通しをもつことができるように、九州地方の自然環境に関する写真を示し、問い返しをしながら単元を貫く学習課題を設定した。【A③-2】	1
〔単元を貫く学習課題〕 なぜ自然環境によって人々の生活や産業が異なるのだろう			
調べる	○火山の近くで生活する人々の生活について、教科書や資料集を使って自然環境下におけるメリットとデメリットを調べる。 ○九州地方における自然環境の違いと、その自然環境下における農業の在り方について、教科書や資料集を使って調べる。	◆火山の近くで生活する人々の生活について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。【B④】 ◆グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促した。【B⑤】 ◆九州の南部と北部の自然環境の違いに農業の違いを関連させて、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。【B④】 ◆グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促した。【B⑤】	4

	○九州地方におけるアジアに近いという地理的条件と、その状況下における工業の在り方について、教科書や資料集を使って調べる。 ○南西諸島における自然環境やアメリカ軍用基地との関わりと、その環境下における人々の生活について、教科書や資料集を使って調べる。	◆九州地方の工業と九州地方のアジアとの位置関係を関連させて、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。 【B④】 ◆グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促した。 【B⑤】 ◆南西諸島における自然環境やアメリカ軍用基地との関わりと、その環境下における人々の生活について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。 【B④】 ◆グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促した。 【B⑤】	
考え・まとめる	○佐賀県の自然環境下における生活や産業の在り方について考え、これからの産業の在り方について展望をもつ。	◆学習内容をまとめる際に、文章表現を行う場を設定するとともに、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って、根拠となる資料を示してまとめるように促した。 【C②③】 ◆単元を貫く学習課題を振り返り、これからの佐賀県の自然環境下における生活や産業の在り方について、自分の考えを記述する時間を設定した。 【C④】	1

b-2 教師の改善策の策定（手順③）

9 月の実践の課題を受けての教師の手立て

- ・単元の見通しをもつことができるように、中国・四国地方の他地域との結び付きに関する写真を示し、問い返しをしながら単元を貫く学習課題を設定する。【A③ - 2】
- ・交通網の発展と地域住民の生活との関連について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・瀬戸内の地理的条件と外国との結び付きによる工業の変化について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促す。【B⑤】
- ・まとめの際に文章表現を行う場を設定するとともに、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って、根拠となる資料を示してまとめるように促す。【C②③】
- ・単元を貫く学習課題を振り返り、山陰の様々な地域おこしを例に、他地域から観光客を呼び寄せるための神埼市の地域おこしについて、自分の考えを記述する時間を設定する。【C④】

c-2 「9 月の実践」教師の手立てを取り入れた授業実践（手順④）

単元名 「中国・四国地方」（帝国書院 pp. 182-195）

単元の指導計画

・・・質的改善を図った手立て

過程	主な学習活動	教師の働き掛け（○）、手立て（◆）	時配
つかむ	○中国・四国地方を概観する。 ○中国・四国地方における交通・通信網や他地域との結び付きについて追究する単元を貫く学習課題を設定する。	○地図や雨温図、写真などの資料から中国・四国地方の自然環境について読み取らせることで、中国・四国地方の概観を整理した。 ◆単元の見通しをもつことができるように、中国・四国地方の他地域との結び付きに関する写真を示し、問い返しをしながら単元を貫く学習課題を設定した。【A③ - 2】	1
	〔単元を貫く学習課題〕他地域との結び付きにより地域はどう変化するだろうか		
調べる	○本州四国連絡橋等の交通網の整備による人々の生活の変化について、教科書や資料集を使って調べる。	◆交通網の発展と地域住民の生活との関連について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。【B④】	3

	○瀬戸内の地理的条件や外国とのつながりによる瀬戸内工業地域の工業の変化について、教科書や資料集を使って調べる。 ○他地域との結び付きによる農業の変化や農家の人々の工夫について、教科書や資料集を使って調べる。	◆グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促した。【B⑤】 ◆瀬戸内の地理的条件と外国との結び付きによる工業の変化について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。【B④】 ◆グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促した。【B⑤】 ◆他地域との結び付きによる農業の変化や農家の人々の工夫について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。【B④】 ◆グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促した。【B⑤】	
考え・まとめる	○山陰の様々な地域おこしを例に、他地域から観光客を呼び寄せるための神埼市の地域おこしについてまとめる。	◆文章表現を行う場を設定するとともに、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って、根拠となる資料を示してまとめるように促した。【C②③】 ◆単元を貫く学習課題を振り返り、山陰の様々な地域おこしを例に、他地域から観光客を呼び寄せるための神埼市の地域おこしについて、自分の考えを記述する時間を設定した。【C④】	1

b-3 教師の改善策の策定（手順③）

9 月の実践の課題を受けての教師の手立て

- ・単元の見通しをもつことができるように、昨今の環境問題における新聞記事から環境保全の取組を示し、問い返しをしながら単元を貫く学習課題を設定する。【A③ - 2】
- ・地域住民の生活や産業、環境問題の関連について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・企業を中心とした環境保全への取組、環境問題の関連について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促す。【B④】
- ・グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促す。【B⑤】
- ・文章表現を行う場を設定するとともに、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って、根拠となる資料を示して考察するように促す。【C②③】
- ・単元の学習を振り返らせ、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを整理しながらまとめるように促す。【C④】

c-3 [10 月の実践] 教師の手立てを取り入れた授業実践（手順④）

単元名 「近畿地方」（帝国書院 pp. 196-209）

単元の指導計画

..... 質的改善を図った手立て

過程	主な学習活動	教師の働き掛け（○）、手立て（◆）	時配
つかむ	○近畿地方を概観する。 ○近畿地方における環境問題や環境保全について追究する単元を貫く学習課題を設定する。	○地図や雨温図、写真などの資料から近畿地方の自然環境について読み取らせることで、近畿地方の概観を整理する。 ◆単元の見通しをもつことができるように、昨今の環境問題における新聞記事から環境保全の取組を示し、問い返しをしながら単元を貫く学習課題を設定した。 【A③ - 2】	1
	〔単元を貫く学習課題〕これから環境問題をどう解決したらよいだろうか		
調べる	○琵琶湖の水質汚濁と地域住民の生活について、教科書や資料集を使って改善への手立てを調べる。	◆地域住民の生活や産業、環境問題の関連について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。 【B④】	3

	○かつての工業の在り方によって起こった環境問題について、教科書や資料集を使って現在の企業を中心とした環境保全への取組を調べる。 ○農林水産業と環境問題の関連について、教科書や資料集を使って環境保全への取組を調べる。	◆ グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促した。 【B⑤】 ◆ 企業を中心とした環境保全への取組、環境問題の関連について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。 【B④】 ◆ グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促した。 【B⑤】 ◆ 農林水産業と環境問題の関連について、複数の資料を基に様々な側面、角度から調べて考えることができるように促した。 【B④】 ◆ グループで、それぞれの考えとその根拠をメモしながら、他の生徒の意見を取り入れたり、自分の意見と比較したりして話し合うことができるように促した。 【B⑤】	
考え・まとめる	○歴史的景観の保全について身近な例を基に多面的・多角的に考察し、これからの環境保全について展望をもつ。	◆ 文章表現を行う場を設定するとともに、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って、根拠となる資料を示して考察するように促した。 【C②③】 ◆ 単元の学習を振り返らせ、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを整理しながらまとめるように促した。【C④】	1

成果と課題

【成果】

- 複数の資料から多面的・多角的に考察させたことで、考察の質を向上させることができました。
- 自分の考えについて、他の意見と比較したり、他の意見を取り入れたりして自分の考えを深めさせることができました。
- 各単元において、自分たちが住む地域社会の実態と結び付けることで、単元を貫く学習課題をより現実的な課題として捉えさせることができました。
- ほとんどの生徒が、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って自分の考えを記述することができるようになりました。

【課題】

- 単元を貫く学習課題について具体的に予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージできるようにする必要があります。

ここまでは、6月から10月までの授業の質的改善のプロセスを示してきましたが、**授業の見直しと質的改善を図るための手立て-2の図2**を今後も繰り返して授業の質的改善を図っていきます。